

長野県の「山」を考えるシンポジウム

～「長野県の「山」を考えるかい。」 パネルディスカッション～

日時 平成 25 年 9 月 7 日(土) 午後 2 時 15 分から午後 3 時 20 分まで
場所 大町市文化会館

鈴木所長（以下、座長）：みなさん、こんにちは。

信州大学山岳科学総合研究所の鈴木啓助と申します。本日の「長野県の『山』を考えるかい。」の座長を務めさせていただきます。

先程の「山の恵み」の映像や知事のお話にもありましたように、信州は「山の恵み」に囲まれているということ、そして、現在、長野県では「山の日」の制定を進めているところです。

そこで、今日は「長野県の『山』を考えるかい。」として、パネルディスカッション形式で、長野県の山について様々な分野の皆様とお話を進めていきたいと思えます。

最初に、みなさんに自己紹介をいただきたいと思いますが、口火ということで私から発言させていただきます。

私は山形県の生まれです。山形県には海がありますが、私は、月山や朝日連峰に囲まれた寒河江というところで生まれました。寒河江には、月山と朝日を源流とする寒河江川というのが流れていて、それが「おしん」で有名な最上川に注ぎ日本海へと出ていきます。

よく日本人は空気と水の価値に、なかなか気がつかないと言われますが、それと同じように、子どもの時から山の中で育ったものですから、あまり「山の恵み」というのを感じないで過ごしました。

ただ、山国は冬になると、たくさん雪が降りますが、雪を嫌だなと思ったことは全くないんですね。そして、高校の頃、雪に興味湧いて札幌の大学に行き、信州には 17 年前に参りました。

それも、ぜひ、雪の近くで、しかも雪があって川が流れているところに行って研究したいと思っていたところを信州大学で拾っていただきました。大学が法人化する際に、私以外にも自然科学だけでなく人文社会、医学の方面でも山に関する研究をされている先生方がおられたので、大学として一丸となって山岳科学を研究していこうということになり、そして私が所長に指名されて、ここに立っているということでございます。

我々が、いつも山をいろいろな側面から研究させていただいていると、いろいろな意味で「山の恵み」というものがあるんだなと感じます。先日の「長野県『山の日』懇話会」（以下、懇話会）でも、各界の皆様からいただいたご意見が多かったのが、「山の恵み」には、いろいろな側面があるよね、ということでした。

ですから、今日は、そういった面も含めて、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

それでは、続いて磯野さんから自己紹介を兼ねて山への思いをお願いします。

磯野さん：みなさん、こんにちは。日本山岳ガイド協会の理事長の磯野剛太と申します。

私は全くの都会育ちで、生まれたのは東京都六本木というところだったので、近くには、山というと青山しかなく、小さい頃からつまらない思いをしていました。

小学校2年生の時に山へ行きたいと思い、女学生の方達に連れられて行った霧ヶ峰のヒュッテで雑魚寝して、女学生の方に囲まれて眠るのが、こんなにいいものだとは分からなかったものですから、それ以来、山ってなんていいんだろうと思い、山を始めました。

信州の山というのは、私の子供の時から原点となる、たくさんの山登りをさせていただいた場所、そして、また憧れの場所でもあります。

今でも、信州の皆様とお付き合いがありますし、信州の山が大好きで過ごしてきましたので、ささやかですけれども、何か、お手伝いできることがあればと思ってまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

座長：では牛越さん、お願いいたします。

牛越さん：地元、大町市長の牛越徹と申します。

私は、生まれも育ちも大町で、中学・高校と学校登山や家庭でも、しょっちゅう山登りをしていました。

東京へ大学で行っても暇があれば郊外の奥武蔵や秩父の山へ登りましたし、夏休みなどには仲間を連れて帰ってきました。長野県庁に就職後も、仲間を連れては山登りに帰ってきました。

山登りだけでなく、スキーやスケートなど、本当に自然の恵みの中で育ち、また今日まで楽しんでできました。キノコ採りや山菜採りに行ったり、お盆の頃は、仏様に供えるお盆の花も、やはり裏山に採りに行ったりと、暮らしの中で山と接してきた、そんな思いがあります。

行政という立場で考えますと、大町市には創立 60 年以上の市立山岳博物館があります。また、10 年前には山岳文化都市宣言を行い、大町は北アルプスの麓にあるということから、山に親しむ、そして山を中心に暮らしを考えていこうという取組を進めているところです。

今日は、地元の立場から、いろいろお話をさせていただければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

座長：平沢さん、お願いいたします。

平沢さん：長野朝日放送アナウンサーの平沢幸子と申します。どうぞ皆様よろしく
お願いいたします。

私は、信州に来て 10 年以上経つんですが、生まれも育ちも東京で、山というと小
学校の屋上から見える富士山が山だなというイメージを持ったまま、山国信州へオリ
ンピックの年にやってきて、今、8 年前から始まった「ザ・駅前テレビ」という番組
で、司会者として、信州を駆け巡っています。

この番組は自らチャレンジすることが、とても多くて、2007 年には、山にチャレ
ンジしようということになりました。本格的な登山はしたことがなかったんですが、
奥穂高岳という 3,190m の、信州で一番高いところに立って、みんなで「おはよう」
と言ってみようよ、ということから登山がスタートいたしました。

本当に、涙々の雨が降る中の大変な登山だったんですけども、その後は、槍ヶ岳
や苗場山に登ったり、先月は木曾駒ヶ岳に行ったりなど、2007 年から 1 年に 1 回く
らいのペースで、登山を楽しんだ様子や素敵なところを、テレビの映像を通じて、み
なさんにお届けするという仕事をしています。

その他にも取材では、山に分け入って根曲がり竹を採りに行ったんですが、竹の中
を泳ぐように行くんですね、面白いんですね。それから、小川村の北アルプスが綺
麗に見える里山で野菜を作って、イノシシやハクビシンに盗られる前に今年は採ろう
というような暮らしを楽しんでいます。

でも、私は、山とって一番に思い浮かぶのは、やっぱり登山です。それは、山に
登って帰って来た時に、ひと回り自分が、大きく逞しくなったかなという感動が、い
つもあるからなんです。

山を登って、もうこれ以上、頑張れないと思ったところに、ちょっと可愛い花が咲
いていて、山に這いつくばるように咲いているんですね。あと、ライチョウが雨上
がりにやってきたりとか、槍ヶ岳で、ものすごく綺麗な夕日に、みんながオレンジ色
に染まったりとか、そういう感動って、やっぱり、あの山の上にある、あの世界なん
だということを感じます。

今日は、みなさんのように山のスペシャリストではないんですけども、山を大好
きな 1 人として人生初のパネルディスカッション、一緒に楽しい山の話ができたらと
思います、どうぞ、よろしくをお願いいたします。

座長：どうも、ありがとうございます。

牛越さんと私は山国で生まれましたが、磯野さんと平沢さんは大都会で生まれて、

けれど今は、みなさん山に非常に関心があって、それぞれ山に関わるような仕事をされているということですね。

実は、懇話会でも、意外と長野県のみなさんも、山にたくさんの恵みがあることに気づいていないんじゃないか、また、「山の恵み」について県外の方に伝わっていない、つまり、発信する力がないんじゃないかという話が出ました。

次に、知事にお聞きしたいのですが、山の日を制定することで県内の方が「山の恵み」に感謝し考えることも大事ですけれども、当然ながら、県外の方にも県の宝、日本、世界の宝ともいえる信州の山を、広く発信していくという方向にも、山の日を制定していただきたいと考えています。知事、長野県の山をどう発信していくかということについて何かお考えはありますか、山への思いも含めて教えてください。

阿部知事（以下、知事）：冒頭のごあいさつで、長野県の「しあわせ信州創造プラン」では、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」を目指していくというお話をさせていただきました。

私も東京で生まれ育ったものですから、たぶん、子供の頃は本当に美しさを実感したことはなかったような気がするんです。私の記憶の中で、なんでこんなに美しいんだろうと思った一番はじめが、小学校4年生で親に上高地に連れてきてもらった時の、あの梓川の美しさ、山の景色の美しさ、あれが私の美しさの原点です。

そういう意味で、山は人に感動を与えるもの、特に、子供達にとっては、すごく鮮烈な印象を与えるものだと思います。都会で自然と関わりなく育つ子供達も多いので、これから地球環境の問題や身近な環境が重要だということを勉強して教えるのではなくて、やはり身体で体験させるということが重要だと思っています。

大学一年の時には白馬に登りに来て、やんちゃな時代でしたが青春の思い出という感じで山を思っています。今日、私は里山に行くような感じの格好なので、たぶん、これで山に登ると私だけ遭難してしまうのではないかと思いますけれど。長野県の山ではないんですが、大学の時に鳥海山に登った際には、山を甘く見て、登り始める時間が遅かったために、山小屋に着く頃には暗くなり、まだゴールデンウィーク中で雪が残っている中、道に迷ってしまい、これはもう駄目だと思ったら100mくらいのところが山小屋だったという、怖い思い出と同時に、恥ずかしい思い出があります。

都会の暮らしや、今の長野県も含めた豊かな暮らしの中で、自然の恐ろしさ、自分が自然や地球の中でどういう形で生かされているか、どういう存在なのかということ、気づかせてくれる存在が山だと思います。

ずっと山に囲まれていると、そういうことに鈍感になりがちではないかというお話もありましたが、今、私が申し上げたような体験は、ぜひ子供達や若者達に、もっともっと知って貰わなきゃいけない。そういう意味で、長野県の山という財産は、他の

地域の人達に貢献できる大きな財産です。鈴木所長がおっしゃるように、ぜひ、県民のみなさんにも山の大切さ・重要性を、もう一度この契機に見直していただきたいですし、山の素晴らしさを発信していきたいと思っています。

今、「しあわせ信州創造プラン」の中で、世界水準の山岳高原観光地をつくろうと取り組んでいます。具体的には、まだこれからですが、県外のみなさんにも山を知ってもらう、山に親しんでもらうという発信を、もっともっとしていきたいと考えています。

座長：ありがとうございます。

知事から山形県に関係する鳥海山の話が出て驚きました。なだらかに見えますが、かなり奥深い山で、特に雪が多いものですから、5月頃では大変だったでしょうね。

知事：本当に、あの時はもう駄目かと正直思いました。

座長：さて、「山の恵み」というのは、とても前向きで明るい話題ですが、そればかりではございません。山は今、いろいろな問題を抱えています。これからスクリーンで、今どんな課題が山にあるか、ご覧いただきたいと思います。

懇話会の中でも、いろいろな検討がありましたので、かい摘んでご紹介したいと思っています。

< 座長から課題説明 >

座長：磯野さんは、世界的登山家として様々な山岳環境とか、観光面でも現状をよくご承知としますので、そうした面から、課題についてご意見をお願いしたいと思います。

磯野さん：私自身の長野県の原体験として、小学校2年生の夏1ヶ月、岡谷の天竜川の畔の農家に預けられたことがあります。馬小屋の隣でしたので、最初に体験したのは、体中一晩で68か所ノミに刺されたというものでした。

また、朝採りのトマトや、トマトに砂糖をまぶして食べるのを初めて体験したり、もちろんイナゴやハチノコですとか、まず都会では食べられない食べ物を体験したり。印象に残っているのは、お盆の天竜川の灯籠流しを見て、なるほどこういう原風景みたいものが、あるんだなと思いました。

小学校高学年の時は、区立の小学校でしたが、その施設が小諸にあったので籠ノ塔山や湯の丸山という山に登られまして、その当時から、都会でも信州の山を歩いた

り、里で、いろいろな体験をする催しものがあったりしました。

ところが、今では、なかなか都会の教育・学校の中で、そういう活動をするところが少なくなってきた中で、信州でもそうかもしれませんが、信州に来られる方達も、山を舞台にしたアクティビティ・活動が減っているんだろうとっております。

もう1つ、信州の原体験には、スキーがあります。スキーも白馬、志賀高原、あちらこちらで長年、仲間とトレーニングをしました。それから山スキーなど、いろいろなことで信州を舞台に活動させていただいています。やはり、もっともっと活性化すべきスキー自体も、今少し沈滞しているように思っております

減少には、いろいろな理由があると思いますが、観光という意味でも、教育的な効果の活動という意味でも、まだまだ伸ばす余地、あるいは再復活する部分というのは、あるような気がします。特に、信州の場合には、地域によって全く文化や風土が違うものが得られるわけですので、長野県を舞台にした県外からの活性化ということが1つの大きな課題になってくるように思っております。

座長：ありがとうございます。大町市長、ひと言お願いできますか。

牛越さん：大町市は北アルプスの中央、例えば、槍ヶ岳 3,180mの北半分は大町市の市域なんです、そうした高山から山麓に広がる深い森のような、様々な山があります。中でも黒部ダムを中心とした立山黒部アルペンルート、これは運動靴やパンプスでも海外からも含め大勢のお客様に訪れていただいています。

そうした中で、いかに、この天与の恵みである自然を保全していくか。1つには、先程も出ておりました山小屋のトイレの改修で水準を引き上げていこうと。また、登山道整備は本当に山小屋のみなさんのボランティア活動の中で維持していただいている例が多いのですが、登山道を整備することにより自然への負荷も抑えることができます。

もう1つは、雪深い大町市でも、カモシカではなくニホンジカが北アルプスの稜線近くまで出没して、高山植物に非常に大きなダメージを与えています。そうした人間の付き合いと自然の中で、自然に負荷を与えない取組を、いかに強化していくかということが大きな課題としてあると思います。

さらにもう1つは、私も卒業した大町高校では全校登山、全校の生徒が一斉に、北は白馬岳から南は槍ヶ岳まで9つほどのコースに分かれて一斉に登るので、3年間在籍すると3回その時々の山に登ることになります。しかし、本当にみな楽しんで登るかと言うと、下る時には達成感があるんですが、山登りを始める時には、今日は来なければ良かったと誰もが思い、背中汗びしょりです。

私も今年6月に針ノ木岳の開山祭の慎太郎祭で蓮華岳に登った時に、やはり来なけ

れば良かったと思ったんですが、下った時の達成感を考えると、大勢のみなさん、特に若い人達にも、この背中に汗する・体験することについて、ぜひ考えていただかなければいけない、そのためにも、山に親しむ機会を増やすことも課題なのではないかと思います。

座長：ありがとうございます。

ただ今のお話や、スクリーンでお示したような課題が、たくさんありまして、その課題について解決策を考えていかなければならないわけですが、長野県で山の日を制定した場合に、今出された課題を解決して、「山の恵み」を知る・触れる・考えるために、どのような取組が考えられるか、皆様からご意見を頂戴したいと思います。

懇話会でも、森林・里山が非常に荒れていることから森林整備に、みんなで参加できるような取組はいかがか、また、たくさんの方が同じ日に如何に多く登れるかというチャレンジをしてみようとか、山そして信州全体の環境保全の取組といったご意見が出されました。

山の日を契機に、こんなことをすれば面白いといったアイデアがあれば、お話しください。

平沢さん：山の日、記念日を制定してくれるというのは、ものすごくワクワクするなと思いました。馴染みのあるところで海の日がありますが、海の日が近づいてくると海に行きたいという気持ちになります。ですから、やっぱり山の日が近づいてくると、山に登りたいなという気持ちになったら、これは最高だと思います。

日にちの問題などはあると思いますが、いつかは祝日になったらいいなというのが、私の第一の感想です。

今、牛越市長からもお話があったように、たくさんの方が山に触れ合って汗をかいで欲しい、そのチャンスとして、どんなことが考えられるかなと思ったんですが、山に行くと、日帰り登山でなければ、山小屋にお世話になると思います。そこで、例えば、山の日だけは山小屋の方にご協力いただいて、長野県民ちょっとだけ割引とかいうものがあればと。山の装備は、安全を守るためですから登山靴も高価ですし、リュックなど揃えて登ると十万円単位でお金がかかる、そこで、少しそんな割引があるといいなと思います。

また、私が今一番行ってみたいと考えているのが燕岳なんです。どうしてかというところ、その山小屋が、すごくいいと聞いたんです。山に登る方を、とても楽しませてくれるご主人がいらっちゃって、例えば、食後に山の素敵な話や、登り方とか注意点、いろいろなレクチャーをしてくださるそうなんです。それから、ホルンを吹いてくださったり。いわゆる“おもてなし”ですよね。

やはり、山小屋は安全が一番大きな役割であると思うんですが、信州の山小屋は安全で楽しいぞというのがあるといいなと、そのご主人からヒントを得て“一山小屋、山の日は一イベント”はどうかと。内容は何でもいいと思うんです。

私達初心者が登山で一番怖いのは、山はいつも判断を迫られる連続だということですから、天候や歩き方、風が吹いてきた時の待ち方とか、そういうお話をいただただけで参考になるし、次にも活かせます。

それから、木曾駒ヶ岳の西駒山荘は、築百年近い石作りの日本でも珍しい山小屋なんですが、今、改築工事中で、今度の15日に、みなさんでレンガを背負って競走で登り、それを建築資材として建て替えるというイベントがあるそうです。

私達もひと足早く、そのレンガを運ばせていただいたんですが、百年経った山小屋で自分達の運んだレンガが資材になって次の百年が続いていくと思うと、また、そこに行きたいと思うし、山小屋を守ることは山の環境を守ることに繋がってくると思います。

何か、そういった信州の山小屋は安全で楽しいんだよというイベントを考えられたら、どうかという、非常に素人目線ですけども、いいなという夢を思いました。

座長：はい、ありがとうございます。

燕岳に行かれたことがあるような詳しいお話でしたね。燕山荘の御主人は、まさに、今のお話のとおりです。

平沢さん：そうなんです、いつか行ってみたいです。

座長：磯野さんは、全国の山の日制定にも奔走されておられますけれども、長野県では、どんな取組が面白そうだと思いますか。

磯野さん：そうですね。逆に、一番気になってしまうのは、全国も長野県も同じなんです。

例えば、東京都には都民の日があって、東京都の学校や施設関係、職員の方もお休みのとれるという日だったかと思うんですが、山の日果たして休みになるのかどうか。長野県の山の日、みんなで山を考えながら、ゆっくり休む、あるいは遊びに出る、といったような、どういう意味を持たせるのかということも課題かもしれません。

もう一つ、私が申し上げたいのは、日本アルプスの山小屋は、それぞれ特色があり、日本アルプスだけではないですが、食事也非常に美味しいですし施設も大変整って、ご主人達も素晴らしい素敵な方が多いです。登山者からみると、それは大変素晴らしいことなんですが、実は、山の日というのは、全国も長野県も同じように、登山者の

ためだけにあるわけではないのだろうということです。

先程の映像にもありましたように水の資源、森林の育成、あるいは里山の実りまで含めた、たくさんの課題があり、鳥獣害も大変大事な対策になるだろうと思います。確かに年に何回も、こちらに伺っていると、シカ、サル、クマが里に下りてくるといことが最近、頻繁にありますから、その対策も興味があるところです。

座長：他にございませんか、よろしいでしょうか。

会場のみなさんにも受付で課題と取組のご提案をいただいておりますので、その結果の上位3つをご紹介します。

1つ目は、山菜・キノコ・ジビエ・薬草などの「山の恵み」を楽しむ取組をして欲しいというご意見です。私は先程も申し上げたように山形県出身なのですが、小中学校の頃、毎年、学校全員で山菜を採りに行き、その売り上げを学校の備品を揃えるのに使っていました。信州にも、たくさんの山菜・キノコ・ジビエなどがありますので、ぜひ、それを楽しむ取組をしていただきたいというご意見が1つ目。

2つ目は、県内だけでなく都市部に住んでおられる方々や企業の方に、森林整備や環境保全活動を推進していただきたいというご意見でした。私も、東京や名古屋などで美味しい水が飲め、きれいな空気が吸えるのは、日本アルプスから綺麗な水がそこから流れ、山で二酸化炭素を吸収し酸素を放出する光合成が活発に行われているためだと考えていますので、ぜひ都会の方にも、そういった目で山を見ていただきたいということで、整備や環境保全に参加していただきたいと思います。

3つ目が、先程もございました野生鳥獣被害問題です。現状がどうなっているか情報発信して、どんな対策をしていくかということを取組としたらどうかという、以上3つが、皆様から頂戴したアンケートの上位です。

これまで、いろいろな取組についてご提案がありましたが、知事は、制定に際して、どんな取組を、お考えですか。

知事：今も、いろいろなアイデアをいただいたので、それも、しっかり踏まえて考えていきたいと思いますが、まずは、親しむということだと思います。特に子供達は親しむことによって、こうしようああしよう自分達で感じることもあると思います。

それから、まだまだ知らないことがたくさんあるので、学びの場ということも必要だと思いますし、他の県の皆さんにも加わっていただいて貴重な山・森を守っていくということも大事だと思います。

加えて、行政としての一番基本的な責務は安全安心だと思います。最近、遭難事故が増えているので、今年も冊子を作ったり安全に登山して貰えるように情報を提供したり、今年は特に、ヘルメット着用を呼びかけたり、これからは海外からの方に対し

でも今までとは違う情報提供をしていかなければいけないと思っています。

先程のお話にもありましたが、やはり基本的には、安心して登ってもらえるということが、楽しみ親しんでもらう前提になければいけないので、我々行政は、まず、そういうところを山岳遭難防止対策協会のみなさんと一緒に行い、親しんだり学んだり守るというところは、今日も大勢のみなさんお越しいただいていますが、県民のみなさん、市町村のみなさん、長野朝日放送さんにも協力していただいて県民全体で一緒になって取り組んでいきたいと思います。

座長：懇話会でも、信州には四季がありますので、夏山だけでなく冬山も、もちろんスキーもありますし、また春・秋も「山の恵み」がありますので、年間通して山の日の取組が必要だろうというご意見が出ました。できれば、ある1日を象徴的な山の日として制定した場合も、それを挟むような形で1週間とか2週間とか、月間でもいいんですが、たくさんの取組をやったらどうかと。

実は、長野県は、これまでも、たくさんの山に関する取組をしています。ただ、なかなか、それを全体として県内外のみなさんも知る機会がないのではないかと。長野県、信州の山の日に関するような取組が、これだけあるんだと発信することが必要ではないかというような発言もありました。

最後は、山の未来をどんなふうにお考えかということと、山の未来に対する期待を、ご意見として頂戴したいと思います。

磯野さん：日本は、極端に言えば山と海しかない国ですから、古来、海人山人、あるいは海幸彦山幸彦というくらいで、特に、日本の山は歴史的にも人々が近づきやすいが故に神様なり仏様が宿っていて、信州でも、どの山々にも山の神がおられて、それは里の鎮守様を含め古くから人々が親しんでこられたところだと思います。

その中で、山に関わる恵みというのは、歴史の中で既に全て抽出されているはずですが、残念ながら信州の中でお住まいになっていると、私共が外から見ると、かえって近視眼的になられているかもしれません。

私共は、たまたま、そういう職業でもありますし、それから信州が大好きということもありますので、食物から風景から、あるいは山の天辺の原風景の違いとか、あるいは四季折々の春夏秋冬の姿かたちも含めて、たくさんの魅力が信州にはおありになって羨ましい限りです。

その魅力を、どういうふうに関わり方に伝え、そして、こういう言い方は少し誤解を呼ぶかもしれませんが、お金を落としていただくということが、私はやはり一番将来に向けて、いい意味での活性化につながるのだと思っています。

そして、その結果、みなさんが、みなさんのお子さん達に、より多く信州での自然

体験、あるいは山の体験をしていただくことにより、相乗効果で信州の山が将来に向かって生きていくものになるのかと思います。

こんなに素晴らしい信州ですから、きっとみなさんで、お互いに、いい魅力を、違う地域で見つけ合うことが、案外いいのではないかと、思っております。

座長：ありがとうございます。では牛越さんいかがでしょう。

牛越さん：考えれば考えるほど多様な面から考えなければいけないのですが、まず、私共にとっては、山があること自体が、信州、長野県の未来につながっていく、つまり、山そのものが未来であると考えます。

と同時に、山や森林は静かだし歩きませんから、私達が山に近づいていくという努力が一番にあるべきだと思います。そこに未来への道が開けると。やはり山に親しみ山を体験し実践することが大事なことはないかと思います。

山は多様ですし、人々の暮らしとの間にも様々なつき合い方があります。例えば、「山の恵み」に感謝して1日過ごすことも大事なこともかもしれませんが、せっかくであれば体験という意味では、トレッキングや小鳥の観察会などもありますし、大町では鷹狩山の展望台を展望公園にしようというボランティアのみなさんの長い取組があります。下草刈りとか、山での作業にボランティアとして参加する、それも1つの実践の方法ではないかと思います。

そうした中で、もう一つ考えていかなければならないのは、ここが県民のみなさんにとっての山であると共に、山岳観光県でもあるということです。多くの観光客のみなさんにも山や自然を楽しんでいただく、そうしたことが長野県の未来へ、地域づくりの未来へと直結しているのではないかと、そのように思います。

座長：ありがとうございます。平沢さん、いかがでしょうか。

平沢さん：はい、私が住む長野市の家のベランダから槍ヶ岳が見えるんです。家から山が見える人は、たくさんいると思うんですが、こちらから見ていて素敵だな、格好いいな、と思うだけでなく、山に入らないと分からなかったこといっぱいあるので、本当に体験が大事だなと思います。知ることで、いつか、こんなに素敵な体験をした素敵なところだから守っていきたいという気持ちも生まれてくるでしょうし。

これまで、たくさん信州の子供達が学校登山にトライしてきて、今、少し減ってしまっているようですが、安全の問題やご両親の心配もあるなど課題はあると思いますが、継続していくことで、信州の子供達が、信州に住んでいるみなさんが、山の魅力を、この山の日を契機にして伝えていけるような、みんなが山の素敵さを知ってい

るんだよ、っていう県になっていったらいいなというふうに感じました。

座長：今ありましたように、未来につながるのは我々のような年代ではなく子供達なんですよね。ですから、子供達が参加できるような山の日を知事にもお願いしたいと思います。

知事は、ご自身のお考えでも結構ですし、知事としての考えでも結構ですので、山の未来、長野県の信州の山の未来についてお願いします。

知事：山の未来には、冒頭申し上げたように、将来世代のために守っていくということと、今おっしゃっていただいたように活かしていく、この両面が必要だというふうに思います。

この間も涸沢で山の関係のみなさんと、先程も出たトイレや登山道の話、あるいは遭難とか、いろいろ聞かせていただきましたが、山が好きな方というのは、いい方が多いんですよね。いい方が多いから登山道も自分達で直そうと、遭対協のみなさんも本当にボランティアで頑張ってくださいています。

そういう方達の善意でやっていただくことも重要だと思いますが、知事の立場から考えた時には、将来に引き継いでいく上で持続可能な仕組みにしていかなければいけないのではないかとということが一番の課題だと考えています。一方で、県の予算も持続可能なものにしなければならないのですが、ただ、山全体をみた時には、少し善意に寄りかかり過ぎているところがあるのではないかとこの感覚を持っています。

これからは、やはり、山を愛し「山の恵み」を受けているみなさんが、もっと広く協力をし合ってくださいいただくことが、山を守り、そして活かしていくことにつながるのではないかと考えています。

例えば、森林（もり）の里親制度では、森林整備に、いろいろな企業のみなさんに手伝っていただいている部分がありますし、今でも、ふるさと信州寄付金で、山の関係の応援をしてくださいますねということと呼びかけて、多くの寄付金をいただいています。

こういうことを、しっかり根付かせて、仕組みとして定着させていくということが知事としての責務の1つだと。

一般の県民のみなさんには、ぜひ山に親しんで、山のことを学んでいただきたいという感じなんですけど、私なりに悩んでいるのは、今の安全の対策の仕組みだったり山を守ったり、あるいは親しんでもらえるための登山道の整備だったり、こういうものも本当に継続して安心してやって、そして将来に続く仕組みをどうやれば作れるかという課題ですね。

先程、鳥獣被害の話もありましたが、鳥獣被害は着実に今、地域のみなさんのご協

力もあって減らしてきています。減らしてはきていますが、では、それが本当に持続可能なのかということです。ここは柵で囲ったからいいけれど、他のところに被害が出てくるのではないかと、みたいなこともありますし。

また、動物達と人間との住む境界がなくなってきていますので、県民のみなさんにご協力いただき、森林づくり県民税として、個人のみなさんには1人500円ずついただいて、里山整備によって緩衝帯を作ったりしています。そういう全体の山・森を守る仕組みを、個々では、いろいろやってきましたが、全体として持続可能なものにしていくということが必要だと思っています。

今の鳥獣被害の話でいえば、ジビエ振興ということで、シカ肉を調理して森の恵みを味わっていただくという取組をしていますが、有害鳥獣を捕って穴を掘って埋めるという方法だと、どうしても、その費用などを考えた時、なかなか持続可能な仕組みになっていないので、ジビエ振興というのは、実は森を守り有害鳥獣対策を進めていく上での持続可能な取組の1つの例だと思っています。

そういう意味で、将来世代に、いろいろな分野で安心して山の資源を引き継いでいくことができる仕組みづくりを、しっかり考えたいと思いますし、県民のみなさんと一緒になって取り組んでいきたいと思っています。

座長：ありがとうございました。

知事から持続可能な仕組みというお話がございました。

時間ですので、そろそろ終わらなければなりません。今日は、山の課題ですとか、山の未来について、みなさまから、お話を頂戴いたしました。

ただ、山の日といいながら、では、一体いつなんだろうと、おそらくみなさん、我々も思っております。

懇話会では、天気が良くなる梅雨が明けた頃、7月の半ばくらいから子供達が夏休みに入る頃の8月の頭くらいの間が一番いいのではないかと、先日、知事に意見書としてお渡ししたところですが、突然で申し訳ないんですが、知事、山の日の日日について、お考えはございますか。

知事：鈴木所長から先般、懇話会座長として意見書をいただきました。みなさんのご意見が集約されていますので、これをしっかり踏まえて進めていきたいと思っています。

また、今日いただいたご意見も踏まえて考えて決めていきたいと思っていますが、私も、お話する中で感じているのは、長野県の里山から山岳までを考えた時に、やはり山岳は、本当に多くの人に親しんでもらえる期間というのは限られているわけですね。冬山の魅力もありますが、それですと、みんなで楽しもうという感覚には、なかなかならないので、そういうことは1つ勘案しなければならないのかなと。

それから、先程から子供の話が出ていますが、子供達に親しんでもらうということ考えた時には、今日は山の日だから、子供達ちゃんと親しんでねというイベントがやれる日であることが望ましいのかなというふうに思います。

それから、もう1つは天候ですね。あまり梅雨の真最中だと、山の日に、みんなで「山の恵み」に感謝しようと思っているのに、いつも雨になってしまっても困るので、そういうことを考えながら進めると、ご意見としていただいたのは7月下旬から8月上旬の期間に、ということでしたが、概ねこのあたりで考えていくことが、いいのかなとは思っています。

ただ、まだ決めたわけではないので、9月中には私共の考え方、制定の主旨とか名前などをお示しして、本日は県議会のみなさんも大勢いらっしゃっていますが、県議会のみなさんや市町村のみなさんのご意見を伺ったうえで、最終的に決めていきたいと思っています。

座長：いつ、というのは、まだ、お楽しみということのようでございます。

時間となりました。今日のパネルディスカッションで、たくさんのご意見をいただきました。先程から申し上げている懇話会でも長時間にわたるご議論をいただき、様々なご意見を頂戴しております。それらを全てまとめて知事の方にお示ししてありますので、ぜひ、知事には、それらを踏まえたかたちで山の日を制定していただければと思います。

本日、パネラーをお務めいただきました磯野さん、牛越さん、平沢さん、誠にありがとうございました。おかげさまで、なんとか時間どおりに終わったのかなと思います。

ご参加いただいたみなさまにも感謝申しあげまして、これで私の務めを終えたいと思います。どうもありがとうございました。